

雜載

〔甲子夜話六〕田沼氏ノ盛ナリシトキハ、諸家ノ贈遺様々ニ心ヲ盡シタルコトドモナリキ、中秋ノ月宴ニ、島臺輕臺ヲ始メ、負ケ劣ラジト趣向シタル中ニ、或家ノ進物ハ小ナル青竹籃ニ、活潑タル大鱧七八計ニ、些少ノ野蔬ヲアシラヒ、青柚一ツ、家彫萩薄ノ柄ノ小刀ニテ、ソノ柚ヲ貫キタリ、家彫ハ後藤氏ノ所彫、世ノ名品、其價數十金ニ當ル、又某家ノハ、イト大ナル竹籠ニシビ二尾ナリ、此二ヲバ類無トテ興ニナリタリト云、又田氏中暑ニテ臥シタルトキ、候間ノ使价、此節ハ何ヲ翫ビ給フヤト訊フ、菖盆ヲ枕邊ニ置テ見ラレ候ト、用人答シヨリ、二三日ノ間、諸家各色ノ石菖ヲ大小ト無ク持込、大ナル坐敷ニ計ハ透間モ無ク並ベタテ、取扱ニモアグミシト云、ソノ頃ノ風儀如此ゾアリケル、

〔江家次第第二見〕大臣家大饗

此間、召人退出、有祿略、註 次引出物、馬各二疋略、註 尊者若好鷹者、被奉之、中略私人不可、飼鷹由、有新制、不可、爲引爲引

出物云々

〔三内口決〕一馬、太刀進物事、

面向之一禮定儀候

嫁取、元服、拜賀、扈從之人衆等、必有此禮儀、

行幸供奉之公卿、有此禮、

樂道郢曲等傳受候時、又有此禮、

〔翹楚篇〕一常々の御物語に、治憲上杉 獻上物は輕きに却てしほらしき誠あり、下々同士の贈物も斯

有べし、よき品到來の満足ならぬにはあらねども、善盡し美盡せる品を贈られては、其心遣ひの痛入、亦相應の挨拶もがなと思ふより、常々苦にし心に懸て安からず、譬釣魚二三も持來り、或は菜園の品摘來りて、手作の品と云、昨日釣得たりなどいひて贈れるには、實も其人の眞實おもひやられてしほらし、斯る品として挨拶の如在をすべきにあらね共、苦にし心にかゝる程にもあ